

第80回総合科学技術・イノベーション会議議事録（案）

1. 日時 令和7年11月28日（金）18:00～18:25

2. 場所 総理大臣官邸4階大会議室

3. 出席者

議長	高市 早苗	内閣総理大臣
議員	木原 稔	内閣官房長官
同	小野田紀美	科学技術政策担当大臣
同	林 芳正	総務大臣
同	片山 さつき	財務大臣（三反園財務大臣政務官代理出席）
同	松本 洋平	文部科学大臣
同	赤澤 亮正	経済産業大臣
議員	宮園 浩平	常勤 元（国研）理化学研究所理事・元東京大学卓越教授
同	伊藤 公平	慶應義塾長 兼 慶應義塾大学工学部教授 兼 日本学術会議会員 兼 （一社）日本私立大学連盟常務理事
同	梶原ゆみ子	シャープ（株）社外取締役 兼 （一社）産業競争力懇談会エグゼクティブアドバイザー
同	佐藤 康博	（株）みずほフィナンシャルグループ特別顧問
同	菅 裕明	東京大学大学院理学系研究科化学専攻教授 兼 東京大学先端科学技術研究センター教授 兼 日本学術会議会員 兼 ミラバイオロジクス株式会社取締役
同	鈴木 純	帝人（株）シニア・アドバイザー 兼 APECビジネス諮問委員会（ABAC）日本委員 兼 出光興産（株）社外取締役 兼 MS&ADインシュアランスグループホールディングス

(株) 社外取締役

兼 (一社) 日本経済団体連合会常任幹事、日タイ貿易経済委員会委員長

兼 (公社) 経済同友会副代表幹事、地政学リスク委員会委員長

同 波多野睦子 東京科学大学理事・副学長  
兼 東京科学大学工学院教授

同 光石 衛 日本学術会議会長

臨時議員 茂木 敏充 外務大臣 (大西外務大臣政務官代理出席)

同 小泉進次郎 防衛大臣

同 城内 実 日本成長戦略担当大臣

橋本 和仁 内閣官房科学技術顧問

宇野 善昌 内閣総理大臣補佐官

#### 4. 議題

- (1) 第7期科学技術・イノベーション基本計画の検討状況について
- (2) ムーンショット型研究開発制度の進捗状況等の評価について
- (3) 福島国際研究教育機構の令和6年度研究開発等業務の実績評価に対する総合科学技術・イノベーション会議の意見について

#### 5. 配布資料

- 資料1 第7期科学技術・イノベーション基本計画の検討状況について
- 資料2-1 ムーンショット型研究開発制度の進捗状況等の評価について
- 資料2-2 ムーンショット型研究開発制度5年目評価について (案) (目標1)
- 資料2-3 ムーンショット型研究開発制度5年目評価について (案) (目標2)
- 資料2-4 ムーンショット型研究開発制度5年目評価について (案) (目標3)
- 資料2-5 ムーンショット型研究開発制度5年目評価について (案) (目標6)
- 資料3-1 福島国際研究教育機構の令和6年度研究開発等業務の実績評価に対する総合科学技術・イノベーション会議の意見について

資料3-2 諮問第51号「福島国際研究教育機構の令和6年度業務実績に関する主務大臣評価（案）について」に対する答申（案）

参考資料1 諮問第51号「福島国際研究教育機構の令和6年度業務実績に関する主務大臣評価（案）」について（諮問）

参考資料2 第78回総合科学技術・イノベーション会議議事録（案）

## 6. 議事

### 【小野田科学技術政策担当大臣】

ただいまより第80回総合科学技術・イノベーション会議を開会いたします。

それでは、議事に入ります。

1つ目の議題は、「第7期科学技術・イノベーション基本計画の検討状況について」です。

資料1を御覧ください。

1ページ目でございます。

来年度からの5年間を対象とする第7期「基本計画」について、現在、基本計画専門調査会において議論・検討しており、来年3月末までに取りまとめる予定です。

資料左下にごございますとおり、科学技術・イノベーションを巡る現状としては、トップレベル論文数のランキングが13位に下落するなど、我が国の研究力が低下していることや、米中をはじめ各国が研究開発投資を増大させ、テクノロジーを巡る国家間の競争が激化していることなどが挙げられます。

このような状況を踏まえまして、国家の経済と安全保障の基盤である科学技術力を高めるため、科学技術・イノベーション推進のためのオペレーティングシステムを刷新すべく、資料右下にある6つの方向性で検討しております。

2ページ目に移りまして、資料上段のとおり、これまで科学技術・イノベーションが推進されてきましたが、組織マネジメントの縦割り、自前主義の専門人材や研究機器、デジタル転換の遅れが、競争力・研究力が低下した原因として挙げられます。

そのため、科学技術推進システムを刷新し、人材のダイナミックな流動を促すなど、科学技術政策の大転換を図ることとしています。

3ページ目に移りまして、資料左側、方向性の1つ目「科学の再興」でございます。

「我が国全体の研究活動の行動変革」のため、例えば新たな研究領域への挑戦の抜本的な拡充

や、戦略的な国際頭脳循環を図ってまいります。また、「世界をリードする研究大学群等の実現に向けた変革」のため、大学のガバナンス改革の推進や「国際卓越研究大学制度」等を通じた研究大学群の形成を図ってまいります。さらに、これらを実現するために、大学・国研への投資を抜本的に拡充してまいりたいと考えています。

続いて、資料右側、方向性の2つ目「技術領域の戦略的重点化」でございます。

将来にわたって科学技術力を維持・強化するため、限られた政策資源を最大限活用し、戦略的に支援してまいります。

具体的には、日本成長戦略本部でも示された「危機管理投資」、「成長投資」の戦略分野も踏まえ、御覧の16の「新興・基盤技術領域」について、各府省庁の予算の重点配分を行います。加えて、6つの「国家戦略技術領域」について、研究開発から産業化まで一気通貫支援を行うとともに、研究開発投資のインセンティブの重点化を図ります。

4ページに移りまして、資料左上、方向性の3つ目「国家安全保障との有機的連携」として、デュアルユース研究開発の推進や、経済安全保障に係る技術力の強化などを進めてまいります。

また、資料左下、方向性の4つ目「イノベーション・エコシステムの高度化」として、産学連携の推進やスタートアップ・エコシステムの形成を進めてまいります。

さらに資料右上、方向性の5つ目「戦略的科学技術外交の推進」として、重要技術領域における同盟・同志国との連携強化などを図ってまいります。

最後に資料右下、方向性の6つ目「推進体制・ガバナンスの改革」として、研究開発投資の目標設定や、CSTIの司令塔機能の強化について具体化を図ってまいります。

5ページ目は、参考資料でございますので、説明は省略いたします。

2つ目の議題は、「ムーンショット型研究開発制度の進捗状況等の評価について」です。

資料2-1を御覧ください。

本年が5年目に当たる4つの目標について、進捗状況や今後の達成の見通しの評価を踏まえ、いずれも「継続」としたいと考えております。

なお、光石議員より、関係するプロジェクトに研究者として関与していたことから、目標3の議決には参加しない旨の申し出がありました。これについては、議決の際の議事録に反映いたします。

3つ目の議題は、「福島国際研究教育機構の令和6年度研究開発等業務の実績評価に対する総合科学技術・イノベーション会議の意見について」です。

資料3-1を御覧ください。

令和6年度の業務実績の評価案について、関係閣僚から諮問があったものです。

評価案については、新産業創出等研究開発基本計画を十分に踏まえるとともに、科学技術・イノベーション政策とも整合が取れており、資料3-2のとおり、「妥当」であると考えております。

それでは、本議題について、有識者議員の皆様より、御発言をいただきたいと思っております。

では、伊藤議員、よろしくお願いいたします。

#### 【伊藤議員】

資源に乏しい我が国において、次世代が豊かで平和な生活を送っていくためには、日本が最先端の科学技術の発展に寄与しながらも、その活用において世界中から一目置かれる存在になっていく必要があります。高度な科学技術と創造力を駆使することにより、急速に進む少子化においても、暮らしやすい社会を維持していくために最も大切なのは、国としての次世代の教育への大きな投資です。

科学技術の発展と活用に向けて、尖った人間がどこまでも伸びる環境整備は大切ですが、並行して目指すべき日本の姿は、平均的な能力において世界トップとなる集団が力を合わせて頑張る国です。

そのためには平均的な中間層、すなわち最も人数が多いボリュームゾーン集団のレベルアップとやる気向上を実現するための教育システムをAIの発展に合わせて再構築していく必要があります。そのような教育のための投資拡大を是非御検討ください。

#### 【小野田科学技術政策担当大臣】

次に、梶原議員、よろしくお願いいたします。

#### 【梶原議員】

2020年からのムーンショット型研究開発制度は、当時より既に欧米や中国では基礎研究の知見・アイデアから卓越した成果を生み出し、速やかにイノベーションへ繋げるという取組が進み、さらに社会課題からバックキャストした量子、AI、バイオ等の先端研究が活発化していた中で始動しました。

我が国での基礎研究力からイノベーション創出を目指す研究開発として最大10年の当該大型プログラムは、今回迎える5年目のステージゲートにおいて、AIロボットの重点テーマ見

直しや人材育成などの附帯事項が付与されますが、大変顕著な素晴らしい成果も創出されています。

本プログラムからの示唆は、基礎研究を長期に継続、失敗を恐れずアジャイルに果敢に挑戦、そして、多様な分野の知を集めた融合研究の加速、の重要性です。

不易流行で本プログラムの良さの継承と、激変する世界情勢に即応、刷新する研究開発・イノベーション政策を原動力に、我が国の戦略的自律性・不可欠性の確保、そして日本が先頭に立ち、人類社会の発展への貢献に向け、未来志向の第7期科学技術・イノベーション基本計画の策定を期待いたします。

#### 【小野田科学技術政策担当大臣】

次に、佐藤議員、お願いいたします。

#### 【佐藤議員】

第7期の基本計画に関連して2点申し上げたいと思います。

1点目は、科学技術・イノベーションの推進が持続的な経済成長を生み出すための産学連携の更なる強化の必要性についてです。

研究成果と技術開発で世界をリードしながら、社会実装と大量生産で他国の後れを取り、我が国経済の発展に十分に貢献できなかった科学技術は数多く存在いたします。

量子技術や核融合などの最先端科学技術分野も含め、研究開発の成果を速やかに産業化に結び付け、経済成長を生み出していくためには、産学連携の一層の強化のための追加的な政策対応が是非とも必要であります。

この点は、優れた製造技術を持つ我が国の中堅・中小企業の支援という観点からも非常に重要な視座であると考えております。

2点目は、国家安全保障分野における戦略性の強化でございます。

この分野で戦略的不可欠性・自律性を確保するために、非常に重要なことは、グローバル・サプライチェーン全体を俯瞰した戦略策定ということが極めて重要です。どこで勝てるかという話です。

現在検討中の新しいシンクタンクの機能とCSTIの司令塔機能を強固にリンクさせ、分野ごとに勝ち筋を定めた上で技術的連携も含めた包括的な国家戦略が実践されるよう議論を深めていきたいと考えております。

引き続きの御支援をよろしくお願いいたします。

**【小野田科学技術政策担当大臣】**

次に、菅議員、お願いします。

**【菅議員】**

私は、9月から半年間、オックスフォード大学の招聘客員教授として、当該大学を内部から見る機会を得ております。

オックスフォード大学は世界ランキングのトップに君臨する大学で、高等教育、歴史、国際性、全てにおいて最高の評価を得ている大学です。

しかし、英国の経済は好調とは言えず、イギリス政府は研究費予算を削減し、将来の科学技術の発展を不安視しているオックスフォード大学の研究者も多数おります。

一方で、最近になってオラクルの創業者がエリソン工科研究所をオックスフォードの郊外にスタートしました。創薬と医療、地球環境、農業、AIとロボット、の4分野に特化し、10億ポンド、2兆円を投資するという事です。

私は建設中の研究所を訪問し、プレジデントONO氏と研究所の将来像を議論しました。彼らは優れたサイエンスからイノベーションが生まれるという明確な思想を持ってこの研究所を運営しております。オックスフォード大学は、教育面で重要な一端を担い、互いを高めていく計画です。

今、日本に必要なことは、まさしく長期を見据えたイノベーションの源泉となるサイエンスへの投資です。エマージングサイエンス、エマージングテクノロジーの両輪への投資があつてこそ、真のイノベーションが生まれます。

高市総理と閣僚の皆様の御理解と引き続きの御支援をお願いする次第です。

**【小野田科学技術政策担当大臣】**

次に、鈴木議員、お願いします。

**【鈴木議員】**

第7期科学技術・イノベーション基本計画では以下の3点が柱になるべきと私は考えております。

まず、1つ目は基礎研究への継続的投資です。長期的視点に立った基礎研究への継続的投資は科学技術の礎です。

本年は日本人研究者2名がノーベル賞を受賞されましたが、未来社会を支える研究の多くは、当初は理解されにくいものです。そうした研究を可能にする環境は「選択と集中」からは生まれません。研究者が自由闊達に研究に取り組める環境整備の推進が求められます。

また、高等教育だけではなく、初等・中等教育からの科学の裾野を広げる教育改革も並行して行われることが必要だと思っております。

2つ目は、重要技術領域、戦略的領域の徹底強化です。日本の重要技術領域が選定されましたが、特に戦略的意義の高い領域に関しては、広範かつ継続的な戦略的投資と人材育成を通じて日本の「不可欠性」を確立し、日本の技術や人材なしには成り立たない産業構造を築くということが国際競争力の源泉となります。

そして、3つ目は国家安全保障政策と科学技術政策の連動です。国家安全保障は多層的な要素の総合力から構成されており、科学技術はその中核を担っています。先端技術や経済的圧力が国力を左右する時代において、日本が安全かつ豊かな国であり続けるためには、政策と科学技術の連携を強化し、戦略的に取り組む必要があります。

これら3つの視座を軸に、第7期科学技術・イノベーション基本計画が次の時代に向けて力強く進化し、国民の安全と豊かさを支える礎となることを期待するとともに、私どもCSTI議員はしっかりとそのかじ取りをしていきたいと思っております。

#### 【小野田科学技術政策担当大臣】

次に、波多野議員、お願いします。

#### 【波多野議員】

政策の柱として「新技術立国の実現」を掲げられたことに感謝するとともに、我々は新たなスタートアップに臨むような高揚感と期待を抱いております。大学の立場から、重要技術領域について発言させていただきます。

基礎研究、新興・基盤、国家戦略の3つの領域は境界を越えて有機的に連携して、知の創造とイノベーションの好循環を生み出すことが重要です。この実現には、CSTIが司令塔になり、国際連携、府省庁間の連動とともに、産業界を巻き込んだ施策を強力に推進することが不可欠です。

横断的な課題としては、人材育成と流動性の活性化、そして分野横断を促進したエコシステムの形成がございませう。特に大学においては、研究者のアカデミックとソーシャルインパクトの双方の貢献を評価する制度の導入が必要です。

ここで常に土壌となり、そして基盤となるのはデータです。

AI for ScienceとScience for AIが相互に強め合うことによつてこそ、信頼性あるAI共生社会が実現し、新技術立国に貢献するエンジンとなり得ます。

今回の領域策定においては、e-CSTIやJSTのCRDSなどのエビデンスベースのデータが有効でした。

今後は先端研究者の知見をさらに活用した先見的なシンクタンクに発展することを期待します。引き続き御支援のほどよろしくお願ひいたします。

#### 【小野田科学技術政策担当大臣】

次に、光石議員、お願ひします。

#### 【光石議員】

次期科学技術・イノベーション基本計画について申し上げます。

日本学術会議では、昨年11月に「第7期科学技術・イノベーション基本計画に向けての提言」を公表しております。これを深掘りする形で、昨日、「研究力の危機と再構築：学術と社会を支える持続的な研究エコシステムの構築に向けて」と「研究の活性化へ向けた研究評価の具体的な改善方策」という2つの提言を發出いたしました。

前者の研究力強化に関する提言では、「研究力」の低下について、分野を横断して共通する課題に焦点を当て、具体的な改善方策を提案しています。すなわち、研究者の雇用問題の解決、財政基盤の再構築、研究時間の確保、博士人材育成の推進を通じて、研究職の魅力を回復し、我が国の学術を支える持続的な研究エコシステムの再生を目指したものです。

後者の研究評価に関する提言では、定量的指標偏重、形骸化、社会実装との乖離といった日本の研究評価制度が抱える構造的課題を克服し、研究文化の変革と、研究活動の質を高めるための抜本的な改革を提案しております。

これらの学術コミュニティからのボトムアップによる議論の結果も参考にさせていただき、次期基本計画に是非活かしていただきたいと思います。

【小野田科学技術政策担当大臣】

次に、宮園議員、お願いします。

【宮園議員】

私からは、基礎研究力の強化と技術領域の戦略的重点化について述べさせていただきます。

本年、日本からお二人のノーベル賞受賞者が出たことは大変喜ばしいことです。これは日本の基礎研究の現場の底力を示しています。しかしながら、お二人の受賞理由となった研究成果は30年近く前に発表されたものであり、我が国では、研究力の低下が叫ばれて久しい状況です。

この流れを断ち切るためにも、今こそ基礎研究に対する支援の抜本的な強化が必要と考えます。

我が国が克服すべき課題を考える上で、最も強調すべきは、国際頭脳循環、すなわち海外との連携が極めて弱いという点です。主要国と比較しても我が国は海外で活躍する若手人材が極端に少なく、また、海外の優秀な研究者の受入れも十分ではありません。

本年6月にJ-R I S E I n i t i a t i v eを立ち上げていただきましたが、国際頭脳循環のさらなる活性化を重要な柱として位置づけることが重要と考えます。

加えて、基礎研究の成果が社会実装に至るまでのスピードが加速している昨今、その研究成果を社会実装へと円滑に繋げていくことも重要と考えます。主要国でも、経済成長、国家安全保障などの観点から技術領域を特定し、政策資源を重点的に投下しています。

我が国としても、戦略的な支援をするための重要技術領域を選定し、限られた政策資源を最大限活用しながら、研究開発から産業化に至るまで一気通貫で支援していくことが必要だと考えます。

【小野田科学技術政策担当大臣】

続きまして、関係閣僚から御発言をお願いいたします。

林総務大臣、お願いします。

【林総務大臣】

我が国の成長に向け、社会経済活動や安全保障、災害対応に不可欠な基盤である情報通信において、先手を打った官民連携の戦略的投資を促進することが喫緊の課題であり、産学連携や

国際標準化といった多角的な観点からの総合支援が必要です。

総務省では、今後、策定される次期基本計画も踏まえ、C S T I や関係府省庁、情報通信研究機構など、産学官連携により、A I 社会を支える光電融合技術によるオール光ネットワークを中核とする次世代情報通信基盤について、研究開発・国際標準化・社会実装・海外展開を一体的に推進するとともに、世界で最もA I を開発・活用しやすい国を目指し、日本の文化や歴史などに対する正しい理解を備えた信頼できるA I の開発力強化に向けた取組を進めてまいります。N I C Tには日本最大のデータが正しい日本語で入っておりますので、これを活用していきたいと思えます。

また、量子コンピュータの大規模化に伴う既存暗号の解読リスクを踏まえ、量子暗号通信の早期社会実装に向けた取組を加速させます。

このほか、宇宙通信等の重要技術の社会実装を見据えた研究開発もしっかり進め、我が国の成長に貢献してまいります。

**【小野田科学技術政策担当大臣】**

次に、赤澤経済産業大臣、お願いします。

**【赤澤経済産業大臣】**

今般の「第7期科学技術・イノベーション基本計画」では、戦略的に重要な技術領域に官民で大胆に投資を集中させていくべく、技術領域の戦略的重点化を計画の柱の一つとして掲げています。

経済産業省としても、「科学とビジネスの近接化」により、世界で、イノベーションに向けた投資の大規模化、加速化が進む中、戦略的な支援を実施いたします。関係省庁と連携し、研究開発税制等を活用しながら、積極的に重要技術領域に対する一気通貫での支援等を進めていきたいと考えています。

「強い経済」を目指し、日本経済の供給構造を、「危機管理投資・成長投資」によって強化し、日本企業の「稼ぐ力」を高め、物価上昇を上回る賃上げ実現に繋げることが重要です。日本成長戦略本部において、「新技術立国・競争力強化」の担当大臣として、戦略を策定するよう総理から指示を受けておりますが、「第7期科学技術・イノベーション基本計画」の議論も踏まえて、「技術だけでなく、ビジネスでも勝てる」よう、日本に強みのある技術の社会実装や勝ち筋となる産業分野の国際競争力強化に資する戦略的支援等の検討を進めていきます。

**【小野田科学技術政策担当大臣】**

次に、小泉防衛大臣、お願いします。

**【小泉防衛大臣】**

今回、第7期科学技術・イノベーション基本計画の策定に向けた方向性において、デュアルユース技術の研究開発の推進を始めとする「国家安全保障との有機的連携」という要素が盛り込まれたことは、画期的であり、かつ極めて意義深いものです。

今、我が国を含む国際社会は、戦後最大の試練の時を迎えています。世界の枢要な国々は、科学技術の重要性を再認識し、軍事的優位を獲得するために、先端技術を巡る覇権争いを激化させています。

こうした中、民生分野と防衛分野の両方に活用可能なデュアルユース技術への投資は、それぞれの分野においてのみならず、技術力を相互に高め合いながら、ひいては我が国の経済成長に寄与する、いわば「防衛と経済の好循環」をもたらすものです。

防衛産業が、日本成長戦略に関する「危機管理投資」「成長投資」の17分野に位置付けられたことも踏まえ、経済産業省を始めとする関係府省庁と密に連携を取りつつ、防衛省として、この「防衛と経済の好循環」の実現に向けて取り組んでまいりたい考えです。

**【小野田科学技術政策担当大臣】**

次に、城内日本成長戦略担当大臣、お願いします。

**【城内日本成長戦略担当大臣】**

高市内閣における成長戦略では、「強い経済」の実現を目指します。

リスクや社会課題に対して、官民が先手を打って連携する戦略的な危機管理投資・成長投資を促進し、世界共通の課題解決に資する製品・サービス・インフラを提供することによって、我が国経済の更なる成長を実現してまいります。

成長戦略では、AI・半導体、造船、量子等の17の戦略分野において、設備投資・研究開発投資を促進する総合的な支援策を取りまとめます。また、「強い経済」の基盤を構築する、「新技術立国・競争力強化」など分野横断的課題への解決に向けた戦略も策定します。

科学技術・イノベーションは国力の源泉であり、成長を加速させ、社会課題を解決する原動

力となります。そして、今回、第7期科学技術・イノベーション基本計画の方向性において示された「重要技術領域」はすべて、成長戦略の17の戦略分野に含まれています。

今後、第7期基本計画の策定に当たっては、成長戦略のねらい・方向性を踏まえた検討を期待しつつ、日本成長戦略担当大臣として、来年夏の成長戦略の取りまとめに向け、小野田科学技術政策担当大臣を始めとする関係閣僚と緊密に連携してまいります。

**【小野田科学技術政策担当大臣】**

次に、松本文部科学大臣、お願いします。

**【松本文部科学大臣】**

文部科学省では、次期基本計画の策定に向けて有識者会議を開催し、先端科学の成果が短期間で社会を変えるほどのインパクトを持つことを踏まえ、科学を再興し、科学を基盤として我が国の将来を切り拓く上で必要な取組について提言いただきました。

主な内容は、

- ・新たな研究領域への挑戦の抜本的な拡充やAIによる科学研究の革新等、我が国全体の研究システムの刷新
  - ・研究力の強化に向けて、経営や人事給与マネジメントの高度化を図る、研究大学群の実現
  - ・これらの取組を促進するため、運営費交付金等の基盤的経費や様々な府省庁や民間からの基礎研究への投資の抜本的拡充
- となっています。

文部科学省としては、提言及び今後策定される第7期基本計画を踏まえ、関係府省と連携しつつ、基礎研究力や人材育成の抜本的な強化を核に、イノベーション・エコシステムの形成を図ってまいります。

また、今回継続が決定されたムーンショット型研究開発制度の4つの目標については、評価結果を踏まえ、2050年のムーンショット目標達成に向けて挑戦的な研究に取り組むよう、事業を推進してまいります。

**【小野田科学技術政策担当大臣】**

次に、大西外務大臣政務官、お願いします。

### 【大西外務大臣政務官】

国際社会の不透明性と不確実性が増す中、国力の重要な源泉である科学技術力を抜本的に強化することは急務です。特に先端科学技術は、国際秩序の在り方にも大きな影響を及ぼすものであり、外務省として科学技術力の強化を外交面で後押しするとともに、科学技術力の外交における活用、望ましい国際秩序形成等のため、ODA等の外交ツールを活用しつつ、戦略的な科学技術外交を推進してまいります。

より具体的には、新興・基盤技術領域において、経済安全保障を含む国家安全保障の取組と緊密に連携し、研究開発協力、技術情報等の管理、国際ルール形成などについて、米国や同志国と連携しつつ、取組を強化してまいります。

また、日本の技術力を総動員し、グローバルサウス諸国を含む各国を巻き込んだ信頼性の高いイノベーション・エコシステムを、各国とともに共創していくことが重要です。

さらに、こうした取組をより戦略的に進めるべく、在外公館、大学、研究機関の連携を強化し、国際頭脳循環ネットワークの形成を支援してまいります。

外務省としては、引き続き、第7期科学技術・イノベーション基本計画の策定に積極的に貢献してまいります。

### 【小野田科学技術政策担当大臣】

次に、木原官房長官、お願いします。

### 【木原官房長官】

国の将来の繁栄に戦略的な意味を持つAI、量子技術、バイオテクノロジーを含む先端科学技術が急速に進歩しており、実装に向けて世界的に主導権争いが激化しています。

我が国として、国家安全保障の観点からも、科学技術・イノベーションは不可欠なものであり、挑戦的な目標にリスクを取って果敢にチャレンジし、従来の常識を覆すブレークスルーを実現していくことが必要です。

そして、先端技術を社会実装につなげ、我が国の国力を高めていくため、政府だけでなく、企業、大学、研究機関等の叡智を結集してまいります。

第7期「科学技術・イノベーション基本計画」に当たって、国民の期待に応えていく科学技術・イノベーション政策が求められていますので、統合イノベーション戦略推進会議の議長として、関係府省の一体的な取組を推進してまいります。

【小野田科学技術政策担当大臣】

ありがとうございました。

それでは、「第7期科学技術・イノベーション基本計画の検討状況について」は、資料1のとおり報告を受け、「ムーンショット型研究開発制度の進捗状況等の評価について」は、資料2-2から2-5のとおり決定し、「福島国際研究教育機構の令和6年度研究開発等業務の実績評価に対する総合科学技術・イノベーション会議の意見について」は、資料3-2のとおり答申してよろしいでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

【小野田科学技術政策担当大臣】

ありがとうございました。

では、ここからプレスに入室いただいた後に、高市総理大臣より御挨拶いただきたいと思えます。

(プレス 入室)

【小野田科学技術政策担当大臣】

それでは、最後に高市総理大臣より御挨拶をいただきます。

高市総理、よろしく願いいたします。

【高市総理大臣】

皆様、ありがとうございます。小野田大臣から第7期『科学技術・イノベーション基本計画』の検討状況の報告がありました。

高市政権は、日本に強みがある技術の社会実装を進めるとともに、勝ち筋となる産業分野について、国際競争力強化と人材育成に資する戦略的支援を進めていく『新技術立国』を実現いたします。

そのため、基本計画の取りまとめに向け、3点指示をいたします。

我が国の『科学』を再興すべく、運営費交付金などの基盤的経費や、基礎研究への投資の大

幅な拡充について検討してください。

また、基礎研究から社会実装まで一貫通貫での支援を実現するための施策、例えば、研究開発税制を戦略分野での民間の野心的なチャレンジを促す『戦略技術領域型』や、高い研究力を持つ大学等の研究開発拠点と企業との連携を後押しする『大学拠点強化型』を創設するなどを通じて抜本強化するなど、各府省庁横断で必要な施策をできるものから実現し、計画にも盛り込んでください。

現下の安全保障環境を踏まえ、国家安全保障上の要請に科学技術が応えていくという視点や、戦略的な科学技術外交が重要でございます。関係省庁での連携の在り方や具体的な方策を検討してください。

小野田大臣は、これらの点を踏まえて、関係大臣と連携して年度内を目途に計画を取りまとめてください。

さらに、今般の基本計画を礎として、日本に強みがある技術の社会実装や勝ち筋となる産業分野の育成を促進する『新技術立国』の実現のため、赤澤大臣を中心に、来年の夏の戦略策定に向けて、更なる検討を深めてください。

具体的には、研究開発法人の技術シーズの徹底した社会実装、防衛調達を始めとする官公庁による調達、また、規制・規格の導入による新たな需要創出・拡大策など、効果的な施策の検討を深めてください。以上です。よろしくお願いいたします。

【小野田科学技術政策担当大臣】

ありがとうございました。

それでは、プレスの方、御退室をお願いします。

(プレス 退室)

【小野田科学技術政策担当大臣】

では、議事は以上でございます。

本日の資料はこの後公表いたします。

以上で会議を終了いたします。

本日はお集まりをいただきありがとうございました。